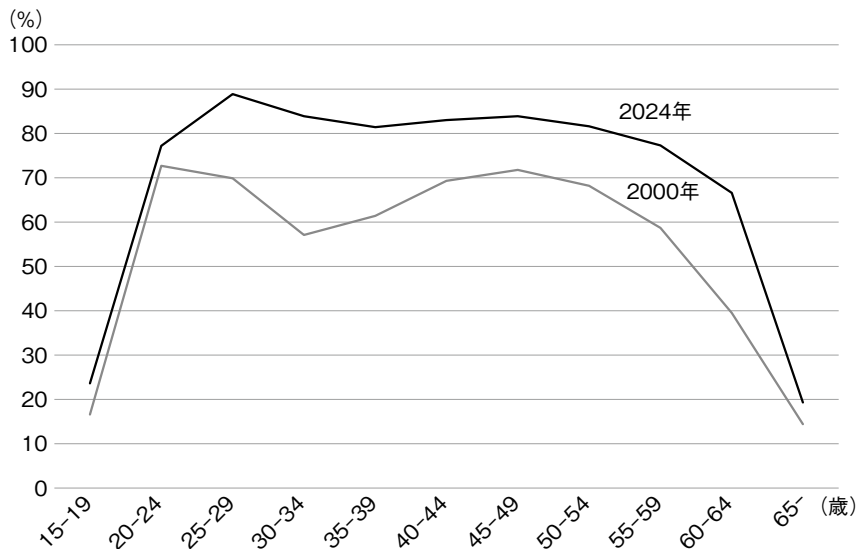


女性の労働力人口比率（2000 年，2024 年）



日本の女性の年齢階級別労働力人口は、欧米各国と比べて、20代後半から30代にかけて比率が落ち込むM字型を明確に描くことが特徴といわれてきた。ここからは、出産等のライフイベントのために一度離職し、その後、育児が落ち着いてから再び労働市場に戻るという日本の女性労働者の働き方がみえてくる。しかしながら近年、日本においても、女性の社会進出とともにM字の傾斜が緩やかになり、労働力人口比率自体も上昇してきた。2000年時点ですでにM字カーブの崩れが認められるが、2024年にはより台形型に近づきつつある。また、晩婚化・非婚化、共働き率の増加等も相まって、1970年代には20代後半だったM字の底が30代後半になっていることも見て取れる。

総務省「労働力調査」より作図